

7 国際交流

進捗状況報告

○基礎的な状況を継続的に観測する指標			公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		公開	○	機関								
指標2	国際交流協定締結国数		公開	○	国								
指標3	海外からの学生の受け入れ	国数	公開	○	国								
		外国人留学生	正規	公開	○	人	28	33	38	42			
			交換	公開	○	人	14	27	31	40			
		外国人留学生 在籍学生比率	正規	公開	○	%	0.9	1.0	1.2	1.3			外国人留学生÷在籍学生数
			交換	公開	○	%	0.4	0.8	0.9	1.2			
その他 (セミナー等による受け入れ)	公開	○	人										
指標4	海外への学生の派遣	国数	公開	○	国								
		人数	長期	公開	○	人	53	50	32	53			
			短期	公開	○	人	72	72	61	82			
		在籍学生比率	長期	公開	○	%	1.5	1.4	0.9	1.5			海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	公開	○	%	2.0	2.0	1.7	2.3			
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)		長期	公開	○	人	2	2	0	2			
			短期	公開	○	人	4	3	7	5			
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)		長期	公開	○	人	0	1	1	1			
			短期	公開	○	人	45	43	38	42			
○施策の目標の達成度を測る指標			公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		公開	○	人								
<p>注) 全学的な視点、個別的な視点について 全学的な視点とは国際教育協力センターの進捗状況報告シートに表示される項目 個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目</p> <p>注) 正規、交換について 正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。</p> <p>注) 長期、短期について 指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。 指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。 注) 指標4は学部、研究科を合わせた数とする。</p>													

まず、学生の受け入れ状況（外国人留学生数）については、正規留学生、交換留学生ともに、全学生との比率にすると1%前後という極めて小さい数字ではあるものの、年々、微増の傾向にある。派遣状況としては、短期・長期を加えると毎年100人以上の学生が海外留学を行っており、全学生との比率にすると3%を超える値を示している。経年的にも現状維持ないし微増の傾向がある。

次に教員の受け入れ・派遣状況は、両者とも毎年安定しており、受け入れは年に5～7名程度、派遣は年に、長期で1人、短期で40人程度となっている。この数値を教員比に換算するならば、受け入れは約10%、派遣は短期も含めると50%強に達することになる。積極的な交流が毎年継続的に多くの教員によってなされている。

こうした国際交流活動が日常の教育・研究活動へ与えるインパクトそのものを定量化して示すことは困難である。定性的に記述するならば、受け入れ教員のおこなう専任教員とは異なった視点による講義、あるいは海外での研究発表・学術交流に派遣された教員がもたらす新鮮な息吹を持った講義などが学生の学問に対する意欲や関心の向上に資することは言うまでもない。

同時に各専修・学科あるいは学部がイニシアティブをとって、受け入れ教員を中心に据えた講演会などを開催する機会が設定されている。これら講演会の多くは比較的自由に参加可能であり、授業という枠組みを超え、また個別の専門分野にとらわれず、意欲を持つ学生・院生が積極的な関わりを得る機会となる。この点は特筆すべきであろう。

また、教育・研究における日常的な国際交流に関しての具体的な制度として、大学院生向けには国際学会を含む学会活動等への資金補助について具体的な整備・検討を行いつつある。学部学生向けには、留学を行ったとしても4年間での卒業を可能にする制度について、カリキュラム委員会などにおいて、具体的な検討を行っている。こうした制度の充実も、国際交流をさらに発展させる方向にある。

学内第三者評価

学部・研究科ともに、着実に国際交流が進められている。しかし、学部学生が留学をしても4年間で卒業できる制度や、研究科の大学院生が海外で研究発表することに資金援助を行う制度などは、学部・研究科の国際化を具体的に進める上で、できるだけ速やかに制度が整備されることが望ましい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
留学生受け入れ、学生派遣は着実に増加してきており、学部全体として前向きな姿勢と意欲が感じられる。もっと積極的に進められたい。4年間に最低1度ぐらいは海外派遣のチャンスがあつていいと考え、学生派遣も現状（3%）を大いに改善することが望まれる。
受け入れ教員の学生に対するインパクトも評価されているので一層の拡充が期待される。専任教員数（75人）からみれば、派遣・受け入れともに改善の余地がある。
単位の相互認定なども含めたカリキュラム委員会での検討や大学院生向けの国際学会参加費用支援策を期待する。